

鳥栖・三養基地域自立支援協議会 こども部会議事録

日時：令和6年4月22日（火）10：00～12：00

場所：鳥栖市役所3階大会議室

参加者：66名

今年度の事業計画

昨年度の報告、今年度の目標はホームページでの確認をお願いします。

事業報告・事業計画（別紙参照）

部会長 LikePot 鳥栖 合原 千恵氏

副部会長 Kids-House にじいろ 浦越 昌子氏

副部会長 みっけ 浜崎 美里氏

（1）新規事業所紹介

○放課後等デイサービス ゆめがく～学ぶ喜び～

○プレジョブサポート 九千部塾

（2）学校との連携について

◎基山町福祉課より

【保育所等訪問について】

事実と違う話が上がってきている

相談部会で保育所等訪問について話をする

保育所等訪問を開始するにあたって、だれが開始を提案しているのか、サービス事業所、保護者から学校に問い合わせがある

保育所等訪問のガイドラインがあるのでそれに基づいて話をする

目的と違う進め方になっている

学校の意向と違って訪問に入ることがあった

児発が終わって→いったん見直し（終了）→小学校へ

小学校で同じ問題が起こるかはわからないので、いったん学校のほうで様子をみたい。（集団生活で適応しているかを見たい）

学校が保護者と面談をして決めていきたい 学校の巡回もあるので学校がわが判断して、相談委員に相談して保育所等訪問につながる

※事業所から学校に問い合わせることがないように

窓口は計画相談員になるので何かあれば相談員に相談をする。→アセスメントを行い、検討を行う
不明なことがあれば福祉課へ問い合わせを行う。

【支給量について】

支給量を増やすことは給付費が増えるので、支給量をどんな理由で増やしているのか。

目標に沿って（自立支援）支給量を増やすようにする。（（小学校へ進学するにあたり放デイに慣れるために児発を増やすことは理由にならない））

◎グループディスカッション

1 グループ

【それぞれの役割を話す】

情報共有はメールでやり取りをしている。

移行支援会議等で顔を合わせて会議を行っている。(情報共有や方向性を確認している)

よかったこと

児発で活用していたスケジュールや活用グッズをそのまま活用ができてよかった

まとめ

それぞれの役割を理解し方向性を同じにする。

2 グループ

【情報共有】

写真や動画の共有を(保護者の許可あり)している。

学校側から動画を見せてもらい保護者さんにも報告

他事業所へ見学し様子を見る

食事や安全面など配慮をして引継ぎを行っている

3 グループ

【連携に活用できるもの】

今ある現状として、個別支援計画がある、ケース会議等があり必要に関して参加可能になっている。

児発は送迎がある、保護者が連れてくるので保護者と話ができて共有ができていたが、保護者に合わない場合は、保育園の先生や書面に似てお伝えをしている。

放デイはモニタリング等で計画相談を含め顔を合わせて情報共有を行う。

共有時間が持てないこともあるので、個別支援計画書を活用し情報共有を行う。

こんなのがあればいいなとして、ネットを活用

4 グループ

【学校・幼稚園・保育と等訪問とは】

学校と情報共有は難しいこともあるので書面でやり取りを行う。

月に1.2回の会議で譲許法共有を行う。

うまくいったケース

支援内容など成長が見え、またしてほしいと言われた。

個別支援の共有の仕方として、保護者には口頭で伝える。計画相談にはモニタリング時期に伝える。学校には、支援内容をまとめたものを支援会議時にもっていき情報共有を行っている。

5 グループ

教頭先生からは事業所が頑張っていると思うので、保育所等訪問は参考になっている。

放デイとの情報共有として、送迎時に共有を行っている。

会議の発信がどこなのか。

保護者の方も忙しいのでいつのタイミングで会議の連絡をしていいのかわからない。

連絡帳内容も薄く何がどのようにがよく伝わっていないのでこれからの課題になる。

6 グループ

学校からの意見として、移動が多く新しい先生への引継ぎが難しく、専門の方に入ってもらわないと難しい。
途切れない支援を持続するために窓口を統一する

送迎時引継ぎがうまくいってなく、放デイでパニックになり話を聞くと学校での出来事だったので、何が
あったなどは聞きたい。

支援会議では相談いだけの意見でいいと言われた。

基山町は支援会議をしないのでどのように引継ぎを行えばいいのかわからないので、必要な会議は行ってほ
しい。

グレーの児発児童は若楠に相談し計画相談がつかずスタート時期が遅れる、行事ごとに遅れてしまう、短い
期間の支援時間になってしまうので早めに療育時間を持ってほしい。

保育所等訪問員を学校の加配の先生として扱っていた。昼休みに児童を見てほしいと言われたことがある。

7 グループ

大きい集団では難しい児童がりようしていることで、成功体験を経験させる目的

うまくいった事例

行動が激しい児童で、行政含む会議を行い土壌を固めれるようにしていきたい。

情報共有として、かかわりがなかった先生が送り出しを行ったりするので、電話等で情報共有ができれば

8 グループ

どうやったらうまくいくのか

保護者、計画相談を通して信頼を置く

学校の先生から困りごとなど具体的に挙げてもらったほうが目的が明確になる。

業務の時間帯によるが、学校側から可能な時間を提示していただくと調整しやすい。(予約を取って話し合
う)

窓口を統一したいが、SSW は多忙などで専門職員がもう一人いるとスムーズ。

9 グループ

役割として、学校、集団行動、放デイ、他社との関り、集団生活、ADL の向上、集団生活を学ぶ。児発、放
デイで共通することは多い

送迎時等に先生との情報共有ができるので事業所で出来たことなど話ができてよい

同じ目標を目指すには、担当者会議とうに学校側も参加してもらう

10 グループ

温度差が生じている。

それぞれの役割で子供にアプローチをかけていく。受け身になっているように思う。

質問

移行支援会議・自立支援会議について

質問・放デイが主体となり会議ができるように法改正があった

返答・相互が納得した状態で会議を進めたい。相談員が動かない場合は福祉課に問い合わせてください。

中原特別支援学校コーディネーターより

- ・学校にはコーディネーター先生がいるので相談してほしい。
- ・年に2回会議があるので事例があれば伝えていきたい。

次回開催日 R7年7月11日（月 15：30～鳥栖市役所3階大会議